

# 黒岩探訪

たんぼう

3

KUROIWA  
くろいわ

旧名称 あまだれ石  
新名称 火山豆石

今回取り上げるのは、黒岩地区の方なら多くの人がご存じの方です。

「あまだれ石、別名火山豆石」です。

この石は小学校の玄関や校長室に飾られていたり、黒岩小学校PTA広報の題名が「雨だれ石」と付けられたりしているようにとてもなじみ深いものです。この地質学的にも貴重な石は、小学校すぐ北の寺前橋上流の歩道橋下の地層で観察できます。古くは、雨滴痕（うてきこん）と考えられ、通称「あまだれ石」と呼ばれていました。旧県立自然科学資料館の解説では「海岸の砂浜の平らな面に大粒の雨が降って雨滴の跡をつくり、そこに静かに粘土が運ばれてきて雨滴の跡につまりそのまま固まって地層になった」とされています。とところが、今から十数年前に黒岩小学校の児童がこの説に素朴な疑問をもち、自然史博物館の先生に調べ直していただいたところ次のような新説が出されました。それは「今か

なつてあることか、思ひまかす。その日本には、浅い海だつた頃、火山の噴出物の火

ら一千万年以上前、日本列島がまだ山灰と雨が空中で球形に固まり『火山豆石』をつくり、それが海底に積もった。その上に火山灰が堆積して作られた」という説で学術論文に発表されました。

素朴な疑問とそれを生かす教師の指導が大事であることを再認識し、黒岩地区にとつては、とても大事な一つです。この記事を紹介します。



写真2 火山豆石がはがれた跡の化石層



写真1 火山豆石の一粒一粒（直径6～9mm）